

2013年11月28日

報道関係各位

中部学院大学短期大学部  
社会福祉学科

## 介護福祉士を目指す学生がサポートしながら グループホームの利用者が思い出の料理を作る 「おもてなし食事会」を開催します

中部学院大学短期大学部（学長 片桐多恵子）社会福祉学科 野村ゼミ（野村敬子准教授）では12月14日、介護福祉士を目指して勉強している学生が企画、運営する「おもてなし食事会」を開催します。

本学では地域に根ざした福祉教育を実践していますが、野村ゼミでは学生たちがゼミ活動の一環として、地域の住民でもあるグループホームで暮らす高齢者が、生き生きとした姿を再現できるような取り組みを試みています。昨年はシニアファッションショーを行いました。今年開催する「おもてなし食事会」は、グループホームの利用者が、かつて作っていた得意料理や郷土料理を学生と一緒に作り、他のグループホームの利用者や地域の子ども、住民らに振る舞います。

きっかけは、加茂郡白川町で募集していた「地域おこし協力隊（※1）」に野村准教授が着目したことに始まります。同協力隊への希望者が集まらなかったことを知り、学生が“影武者”となり、地域で役立つことを模索。野村准教授と学生がゼミで話し合い、「おもてなし食事会」を企画しました。

ゼミ生は半年かけて、認知症のある利用者に対して生活史調査を行ってきました。認知症のある利用者から、若いころによく作っていた料理や食べていた料理、得意な料理の作り方などを聞き出していたところ「人に食べてもらっておいしいと言われた」という言葉をよく耳にしました。そこで、おもてなし会と題して、野村ゼミ生と9名のグループホームの利用者が一緒に得意料理を作り、同じホーム内の隣接するユニット9名の利用者や職員、地域住民、子供会の子どもたちを招いて食べていただく食事会を開催することにしました。当日は、シューマイやちらし寿司などの得意料理をはじめ、朴葉みそなどの郷土料理、合わせて11品を作ります。

野村准教授は「今回のねらいは、過疎化が進む同町において、人々の触れ合いや絆づくりなどを形成する『コミュニティデザイン』を構築すること。地域に暮らすグループホーム利用者の生きがいがづくり、地域の子どもたちへの郷土料理の伝承などを通じて、地域の触れ合いを深めるきっかけにしたい」と話しています。

## 記

- 日 時 2013年12月14日(土) 午前10時～午後3時
- 場 所 グループホーム かわばた荘  
(岐阜県加茂郡白川町坂ノ東 5467-1 電話:0574-75-2699)
- 参加者 中部学院大学短期大学部社会福祉学科2年生(野村ゼミ)12名  
グループホーム かわばた荘 利用者18名  
地域の子ども会、住民、ボランティアほか
- 料 理 手打ちそば、シューマイ、ポテトサラダ、ちらし寿司、炊き込みご飯  
釜ごはん、朴葉みそ、里芋の煮物、けんちん汁、五平餅、つけもの
- 日 程 10:00-12:00 料理作り  
12:30-15:00 食事会(兼クリスマス会)

※1 白川町地域おこし協力隊

都市部の意欲ある人材を積極的に受け入れ、地域の活性化を促進するため、白川町が募集。

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学 短期大学部 社会福祉学科 (担当:野村 敬子 准教授)

TEL:0575-24-2211 (関キャンパス) Mail: nomura@chubu-gu.ac.jp